

令和6年度 第1回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2024年（令和6年）7月17日（水）
午後4時30分～午後6時30分
2. 開催場所 藤沢市役所本庁舎5階 5-1・5-2会議室

3. 出席者

石井 由佳、 小林 邦芳、 榎本 雅宏、 大島 崇弘、 栃本 親、
高坂 フミ子、 大野 貞彦、 種田 多化子、 石井 博之、 西野 久子、
澁谷 晴子、 川瀬 眞司、 横川 敬久、 大西 剛、 吉田 展章、
戸高 洋充、 末吉 育子、 千葉 雄一、 秋山 美紀、 山本 智子、
上岡 留美子、 平井 護、 佐藤 繁

4. 議題等

1 開 会

2 議 題

（1）藤沢型地域包括ケアシステム 分科会等の取組状況について

- <資料1>令和6年度藤沢型地域包括ケアシステム推進会議スケジュール
- <資料2>藤沢型地域包括ケアシステムについて
- <資料3>2025年に向けたロードマップについて

（2）委員の取組・情報交換について

- <資料4>藤沢型地域包括ケアシステム推進会議の展開及び委員と連携した取組

- <資料5>情報交換・意見交換（当日資料）

★テーマ「社会的孤立の防止」に関する意見交換

- ①孤独・孤立（人に頼れない）を抱えている人の把握・対応方法について
（大島委員・高坂委員・上岡委員）

- ②若年層が抱えている課題・悩みへのアプローチについて
（大西委員・秋山委員）

★情報共有等

- ①担い手不足について（山本委員）
- ②薬剤師会での取組について（大島委員）
- ③地域活動について（石井委員・山本委員）
- ④慶應SFCの取組について（秋山委員）

⑤藤沢市社会福祉協議会の事業紹介（平井委員）

（３）その他

ア 藤沢市地域福祉計画及び重層的支援体制整備事業実施計画について

＜別冊資料＞地域福祉計画 2026＜中間見直し＞

＜資料 6＞藤沢市重層的支援体制整備事業令和 5 年度実施報告

＜資料 7＞藤沢市重層的支援体制整備事業実施計画の改定（案）

イ その他

3 閉 会

Ⅱ. 会議の概要（議事要旨）

1 開会

地域共生社会推進室古郡室長の司会進行のもと、事務局から自己紹介、欠席・遅参委員及び資料確認等をし、その後、議事に入った。

2 議題

議題（１）藤沢型地域包括ケアシステム 分科会等の取組状況について

「資料 1～3 にもとづいて、事務局より説明」

○澁谷委員

今後の地域活動を考えるときに、地域団体を支える若者がいない中で誰が地域を作るのか、地域デザインというところに視点がないといけないのではないかと思います。将来的にこれから地域がどう変わっていくのか、庁内で議論がされているのか教えていただきたい。

○事務局

澁谷委員のおっしゃる通り、現在皆さんの善意で成り立つことが多いと考えている。未来に向けてどうやったら地域活動を継続できるか、庁内でも検討を進めています。

○大野委員

藤沢市の中でも健康寿命にとどまるのではなく、貢献寿命という視点を検討されるのでしょうか。

○事務局

貢献寿命というのはどういったものなのでしょうか。

○大野委員

自分の健康だけではなく、誰かに貢献していくことで内側から充実感が生まれることになります。

合わせて、住民にも課題解決だけではなく、貢献する機会を小さいころから持てるようなものを藤沢型のケアに入れていったら、六つの柱を支える母数が増えるのではないか。これを七つ目の柱にしてもよろしいのではないのでしょうか。

○事務局

今のお話はとても重要だと思います。地域の課題をいかに自分事としてとらえられるかが最大のテーマだと思っている。

○山本委員

ラジオ体操指導者講習会を実施した後に実際にラジオ体操をするのか。来年ぜひとも地区でラジオ体操を実施していくのはどうだろうか。

○事務局

公園体操という名前で実施されている。知られていないのが我々の周知不足の部分である。多世代が参加できるような楽しみごとから健康や地域コミュニティにつながるということが意識出来たらよいと思っている。

○大西委員

公園体操を湘南台地域では 11 カ所、地域住民主体でやっていただいている。毎年実施している 1 日健康デーはよく盛り上がっています。今年度は地区内の中学校が協力してくれる予定になっており、若い人たちを巻き込んでいくというのは重要な視点だと感じる。

議題（２）委員の取組・情報交換について

《資料４にもとづいて、事務局より説明》

《質疑応答無し》

《資料５意見シートを基に、大島委員より説明》

《資料５意見シートを基に、高坂委員より説明》

《資料５意見シートを基に、大西委員より説明》

《資料５意見シートを基に、上岡委員より説明》

○石井 由佳委員

支援者側としてもアプローチをするのは難しいとすることがある。先ほどのご説明の中でも出ていましたが、皆さんと打ち解けてグループワークすることはよいアイデアなのではないかと思う。

また、担い手不足については学生などの若い力を借りていろんなところに参加してもらえるようなシステムを作れると良いと思う。

上岡委員のご説明についてですが、いろんな場を作っても出てこない方がいるのは自分も課題と感じております。できることとしては、声をかけ続けるしかないと思います。やり続けることで誰かが自分を気にかけてくれていると思ってもらうことで充分だと思います。

○末吉委員

孤独・孤立に関するアンケートを実施した。孤独を感じているかの問いに対して、あまり孤独を感じている割合が低かった。高齢者はとても元気で自立している人が多いと感じます。孤独を感じるときの解決方法については身近な友達に相談する人は多く、肉親に連絡する割合は低かった。

孤独を感じる人に対してできることは、孤独を感じる人に声をかける、接触を持つ民生委員活動ができれば良いなと思います。

○小林委員

皆様、ご意見ありがとうございます。孤独・孤立している人に対して、アプローチし続けることが大事であることが挙げられたと感じます。

○吉田委員

孤独と孤立で同じ支援が通じるかという点と全く異なる。社会的に孤立をしてしまうと何かあってからでないと見つけられないことがリスク。公助がないとシステムにならないだろうと思う。孤独は共助・自助が必要だと思うので、整理をしながら考えていくのが必要だと思います。

《資料5 意見シートを基に、大西委員より説明》

《資料5 意見シートを基に、秋山委員より説明》

○石井 由佳委員

藤沢市では若年性認知症とご家族が集まる会が存在し、そこで話し合いがされています。

○澁谷委員

片瀬地区社会福祉協議会では子育て広場をボランティアが中心にやっている。特色として、臨床心理士の方にも来てもらい、お母さんたちの相談対応を行ってもらっている。子育て世代にも孤独や孤立を抱えている方がいることも知っておいていただければと思います。団体として、孤独・孤立の手前のところで役に立てればと思い、続けています。

○横川委員

ヤングケアラーは介護等で大変という問題ともあるが、当事者だけでなく、ご家族と一緒に楽しめる経験をさせてあげること、当事者やご家族に対して大変ではなかったと思えるような感情にできると良いのではないかと思います。当事者や兄弟を含めて一緒に遊べるようなイベントを実施できたら良いなと思います。

議題（３）その他

«次回日程等について事務局より説明»

３ 閉会

地域共生社会推進室古郡室長のもと、閉会。

【次回開催日程について】

２０２４年（令和６年）１０月９日（水）午後４時３０分から

以 上